





# 第20回 「無常ということ」

むじょう

## 修証義

【しゅしょうぎ】

◆お経本の10頁です。

曹洞宗日誦諸經要集

「<sup>ぎおんしやうじや</sup>祇園精舎の鐘の声、<sup>しよぎやうむじやう</sup>諸行無常の響きあり」  
とは<sup>へいけものがたり</sup>平家物語の有名な冒頭の一節です。<sup>むじょう</sup>無常とは仏教の根本の教え。しかし、<sup>むじょう</sup>無常と聞くと、なんだか、滅びの美学を想像してしましますが、<sup>むじょう</sup>仏教では実際にはどのように説いているのでしょうか？

## 無常という真実から目をそらさない

### 【本文】

<sup>さいしやう</sup>最勝の<sup>ぜんしん</sup>善身を徒らにして<sup>いたず</sup>露命を<sup>むじょう</sup>無常の<sup>かぜ</sup>風に<sup>まか</sup>任すること<sup>なか</sup>勿れ。

### 【現代語意識】

私のいのちは、まるで草の葉に宿る<sup>よつゆ</sup>夜露のように、朝日が昇るにつれて<sup>はかな</sup>儂くも消えてなくなってしまふ。うつろいやすいものです。そのような<sup>むじょう</sup>無常の風にただなんとなく吹かれるにまかせて生きてはいけません。<sup>むじょう</sup>無常という真実から目をそらさずに、しっかりと受けとめ、このかけがえのない人生を大切に生きていきましょう。

## ひと呼吸ひと呼吸を大切に

年々からだの自由が失われていく。これは<sup>むじょう</sup>無常ということです。雪がとけ小鳥が鳴き花が咲く、春の訪れもまた<sup>むじょう</sup>無常ということです。<sup>むじょう</sup>無常とは、あらゆるものは絶えず変化していくということ。これは、私たちが受け入れても拒絶しても絶対にそうであるという、仏教の根本であり真実です。私たちは、この絶対真実を、ともすると覆い隠してしまいがちです。なぜならば、この真実が私たちに示すことは、私たちの健康はいつかは失われ、老いさらばえ、そして死を迎えるということだから。できれば、考えないでいたい。しかし同時に、無常ということは、今かかえる悲しみ悩み苦しきもまた、いつかはなくなるということも示してくれています。さらに、絶えずうつろいゆくという真実によって、この人生において何が一番大事なのかも見えてくるはず。私たちの人生、私たちのいのちは、絶えず変化していく世にあるからこそ、**吸って吐くこのひと呼吸ひと呼吸の間**（今）にしかないということにも気づかされるのです。



ユミの！  
おてらよめ日誌  
新コーナー!!

やっと陽気な春がやってきましたっ！今年の冬は、北の冬一年生の私には辛い季節でしたが、雪が溶け、花や緑や鳥がいきいきとしてくる様子に、今まで以上に春を、そしてお日様のぬくもりをありがたく感じる毎日です!!

さて、そんな春にうきうきな私ですが、去る4月22日～23日に大本山永平寺にて、<sup>じぞく</sup>寺族得度を受けて参りました。<sup>じぞく</sup>寺族得度とは、キリスト教でいう“<sup>せんらい</sup>洗礼”のようなもので、これから仏教の教えに基づいた暮らしを実践してゆくという誓いと共に、お寺をお守りする一員として<sup>しやうじん</sup>精進する、という意味があるのではないかと思います。当日はあいにくの雨でしたが、張り詰めた空気に包まれ<sup>ぜんじさま</sup>禅師様より戒を受けることができ、身が引き締まりました。これから一歩ずつ、私らしく仏教を実践していきたい、と思っております。どうか今後ともご指導宜しく願ひいたします!



今月の写真

